

会員総会で留学生在がスピーチ

ベトナム子供基金は5月19日、2007年定期会員総会をアジア文化会館で開催、27人の会員が参加しました。総会では、2006年活動報告・決算報告および会計監査報告、2007年活動計画案・予算案が了承されるとともに、運営委員の選出および承認が行われました（4ページに議事録）。議事終了後、ベトナム人留學生のヴ・クオンさん、ファム・ティ・マイ・フォンさん、ライ・ティ・フーン・ニュンさんが「日本に留学して思うこと」をテーマに次の通りスピーチしました。また、マイ・フォンさんはベトナム民族舞踊を披露してくださいました（編集部）。

日本での経験をベトナムに伝えたい

ヴ・クオン

私はハノイ（Ha Noi）から参りました。慶応義塾大学博士課程1年で、専門は経済学です。子どもは「国の将来」といわれています。皆さんはベトナムの子どもの教育のために献身してください、私はベトナム人として深くお礼申し上げます。

ベトナムの歴史の中では、日本にアコガれを持って留学するという時期が3回ありました。最初は1905年ごろです。この時代、ベトナムはフランスの植民地でした。当時、日本は明治維新を行い、日露戦争に勝利しましたので、ファン・ボイ・チャウ（Phan Boi Chau）という独立運動家が日本に多くの若者を留学させました。しかし残念ながら、当時の日本の政権はフランスとの関係で、ファン・ボイ・チャウのこのドンズー（東遊＝東へ行く）運動を消滅させてしまいました。第2期



の日本留学の潮流は、ベトナム戦争の時代で、戦争による制限もありましたが、ホウエ先生のような非常に愛国心を持っている若者が日本に留学し、ベトナムに帰って、今のベトナム建設に貢献している、そういう時期です。戦争が終わり、一時的に日本とベトナムの関係が悪化し、留學生の数が減りましたが、ベトナムは1986年以降、ドイモイ（経済の刷新）政策を行い、現在は第3期、私たちの時代です。

日本は第二次大戦の敗北から立ち上がり、世界の大国になりました。私は日本

の経済力に非常にあこがれを持っていました。日本に来て、日本の文化も非常にベトナムに近いものだと実感しました。しかし、大変なことにも遭いました。日本語はとても難しいものです。また、日本はベトナム人にとっては物価がとても高いです。5倍か、10年前には10倍くらいの差がありました。生活と学費のため、アルバイトをしながら勉強しています。

日本での生活はとてもプレッシャーが強いと思います。私はほかの国の会社でも勤めた経験がありますが、日本では仕事でも勉強でも自分の能力以上の任務を与えるということ強く感じます。でも、日本の皆さんにとっても親切にさせていただくことも多いです。例えば、私は日本に来て6年目になりますが、最初ホストファミリーになって、いろんなお世話をしてくださった日本のお母さんとお父さんは、季節の果物や、私が経済的に困っていたときには、衣類なども送ってくださいました。今でも精神面で支援していただきます。

ここで申し上げたいことは、国と国の間には異なる面もありますけれども、互いに理解し合うことが非常に大切だということです。そして理解し合うためには心が大切です。心があれば違いを乗り越えることができます。皆さんが今やってくださっているのは、奨学金を通じて、皆さんの心をベトナムの子どもたちに伝えているのだと思います。

私には夢があります。卒業して、ベトナムで学校を作ります。できれば大学を作りたいです。ファン・ボイ・チャウとホウエ先生は若者を日本に送るという運動をしました。私はそれをベトナムで教える、ベトナムの一般の人々にも伝えられるように努力いたします。

(Vu Cuong)



看護師としての責任感

ファム・ティ・マイ・フォン

日本に来てちょうど3年になりました。今、千葉県立野田看護専門学校で3年生です。ベトナムで、日本について初めて聞いたのは中学1年生の世界史の授業でした。第二次世界大戦のこと、そしてアジアで最も経済的に工業的に発展している国、桜の花の国、地震がよく起こる国という一般的なイメージでした。1年後、日本の看護と医療について研修するために、3カ月間日本に留学した母からいろいろな話を聞いたことで、日本に興味を持ち、留学しようと深く決心しました。高校卒業後、ハノイ日本語センターで1年半日本語を学習しながら、日本の看護専門学校の受験勉強を必死に頑張った結果、2005年1月、日本に留学することができました。

看護学校での3年間の生活は非常に有意義なものです。今までマイペースで行動をすることが多かった私は、看護学校に入ってから初めてチームワークに触れました。日本語能力が未熟で、自分の意見をうまく表現できず、グループの友達の言いたいことも素直に受け入れられませんでした。しかし毎日30分から1時間くらい読売新聞を読むという先生方からの特別な宿題、放課後の看護技術の練習

でのチームメイトとの協力、試験勉強や実習チーム内での役割分担などのおかげで、看護活動におけるチームワークの力と必要性が分かるようになりました。

生活においても、奨学金のおかげであまり大きな心配をせずに、日本の生活を楽しむ余裕がありましたが、日本語の練習、日本の文化に触れるチャンスを多くするために、セブン-イレブンで1年間アルバイトをしました。仕事上の責任感、時間の厳守、笑顔で元気なあいさつの力など、学校での場面とは異なる体験ができました。

3年前に初めて電車に乗ったとき、日本人の最初の印象はちょっと冷たくて、他人に対して無関心であるような感じがしましたが、いったん友達になれば、一生の友人になることを実感できました。実習の日の朝に、同じ部屋の先輩が作ってくれる手作りのお弁当、寮の近くのおじいちゃんとおばあちゃんたちからの「気をつけて行ってらっしゃいね」という優しい言葉、患者さんからの「ありがとう」という笑顔。すべて私のこの3年間の励みになりました。

また、3年間日本で過ごせたことが、私自身にとって大きな自信になりました。どんな人であれ、外国で生活することは大変なストレスを伴うものです。この中で生活することができたということは、これからの自分自身の大きな支えになることを確信すると同時に、一人ではこの留学を成し遂げることは不可能だということも分かりました。これから日本人の仲間と一緒に、3年生の実習、卒論、合格点を取るという大変さをつらさを乗り越えて、就職し、今まで学んだことを生かして頑張りたいと思います。

私は学校卒業後、看護師として4年間日本で働いて、経験を積んでからベトナム



ムへ帰ります。そして少しでもいいですから、日本で学んだ看護観をベトナムの看護師に伝えたいと思います。ベトナムの医療は、昔と比べたら結構良くなりましたが、入院生活のレベルと看護の質はまだ不十分なところがたくさんあると思います。看護師としての責任感と患者さんへの思いがいつそう深くなれるよう、留学しているほかの友達とともに頑張りたいと思います。

先ほどは民族舞踊の紹介をしないまま、踊ってしまいましたので、あらためて紹介いたします。ベトナムの国民衣装はアオザイですが、私が着ているのはアオトゥタンというものです。これはアオザイの前の時代のものです。先ほどの曲は、ハノイから50キロくらい離れたバクニン(Bac Ninh)省の曲です。曲名は「春夏の香り」です。春は花が咲く季節です。昔は1カ月に2、3回しか市場が開かれませんでした。特に春の市場はとてもきれいなものでした。そして、普通の市場だけではなく、「恋の市場」でもあり、男女が出会う場所でした。先ほどの曲の特徴は、笑顔とアイコンタクト(視線を合わせること)です。女性の魅力を見せるため

には、笑顔とアイコンタクトが一番大切なものだと思います。

(Pham Thi Mai Huong)

* * *

偶然の導き

ライ・ティ・フーン・ニュン

私は一橋大学の修士課程1年です。11年前は青葉奨学会の奨学生でした。お世話になりました。ありがとうございました。そのとき、ベトナム北部のナムディン (Nam Dinh) 県の高校生でした。高校1年からの3年間と大学の4年間、青葉奨学金をいただきました。大学を卒業してから、ホウエ先生に選ばれて、ホーチミン (Ho Chi Minh) 市のドンズー日本語学校で日本語を勉強し、ドンズーの留学プログラムに参加しました。2005年にドンズー留学生として日本に来ました。ナムディンの青葉奨学生の数はかなり多いです。青葉奨学金は初めHCM市から始まりましたが、1996年から北部でも支給されるようになりました。私たちは初めての北部の奨学生です。一橋大学に入学してから、ホストファミリーのプログラムに参加して、子供基金の会員の方に出会いました。そして子供基金の話になって、「私は青葉奨学会の奨学生でした」と言ったら、その会員の方はとてもびっくり



されていました。そして今日ここで子供基金の会があることをその方から教えていただき、この会に参加することができました。本当にありがたいです。今後、私にできることがあれば協力したいと思います。

(Lai Thi Phuong Nhung)

2007年定期会員総会議事録

期日：2007年5月19日(土)

場所：アジア文化会館会議室

出席：27人

議事要旨：

議事に先立ち、議長に会員の高橋強氏、書記に運営委員の望月良憲氏を選出した。

1号議案：2006年活動報告

2号議案：2006年決算報告及び会計監査報告

標記2議案のうち「2006年活動報告」「2006年決算報告」について、飯田事務局長から一括して報告。会計監査報告については、南監査から「会費の支出は妥当で、決算報告も正確に記載されている」と報告があった。両議案について、高橋議長から諮ったところ、全会一致で了承した。

3号議案：2007年活動計画案

4号議案：2007年予算案

標記2議案について、飯田事務局長から一括して報告があり、高橋議長から諮ったところ、全会一致で了承した。

5号議案：運営委員選出及び承認

標記について、飯田事務局長から報告があり、高橋議長から諮ったところ、これを全会一致で承認した。運営委員の21人は次のとおり(敬称略、報告順)。任期は2007年6月1日から2009年5月31日まで。

今井幸恵、小河原理恵、岡村進、小沢玲子、窪寺祐子、近藤昇、土井敏邦、中原和夫、中村伸、原二郎、藤田政弘、本間きく、望月良憲、丸山明美、南康雄、植田泰史、吉原とも子、原聡美、樋川好美、岡村多美子、奥山義夫

■里子からの手紙

戦争のない世界を願う

レ・ティ・ニー

お父さまとお母さまが私に向けてつづつてくださった愛が込められた文面を読ませていただき、私は本当にうれしく思い、感動しました。あらゆる人の愛情の中で暮らせることは何より幸せなことですし、私は先生方や奨学会の事務局の皆さまが私をお父さま、お母さまと引き合わせてくださったことを大変感謝しています。

お父さま、お母さまお元気ですか？ 日本の今の気候はきっと安定していることでしょうか。今はどの季節なのか私に教えてくださいませんか？ 私は日本が桜の里だと知っています。でもまだ一度も見たことがありません。きっとそれは美しくとても良い香りがするのでしょうか。

さて私の方ですが、こちらは何事も変わりなく順調で皆元気です。通学は少し大変ですが、私は相変わらず頑張って学校に通っています。学校へ通うことは私自身の夢であり、あらゆる人の一特に私の母の一願いでもあります。現在私の母は遠くに働きに行っていて4、5カ月に1回やっと家に戻ってきます。私は母のことが恋しくてたまりません。私は母に電話をかけるたびに涙を禁じえません。将来母の苦労を減らすために私は頑張って勉強し働こうと思っています。

今私の住んでいるベトナムでは乾季でとても暑くて雨は降らず、ゴムの木は新しい樹液の収穫の季節に備えて若葉が出始めています。このあたりの人々の主要な仕事はゴムの木に依存しています。彼らの生活はゴムの木と密接な関係にあります。教育の機会もなく生活の水準も低く、自分自身が

食べていくためにゴムの樹液をかきに行くことしか知りません。早朝から深夜まで身を粉にして働く彼らの姿を見ていると、彼らのことが大変かわいそうだと感じます。

ベトナムは発展途上国にすぎず、人々の生活はやっと少し改善されたにすぎません。そして田舎や農村に住んでいる人民は今も生活のために体を酷使して働いています。電気がまだない場所もあり、日常生活も大変困難です。しかしそうでありながらも平穏です。

私の知識では、イラクではテロや暴動・戦争によって多くの罪のない人民が殺されなくてはなりません。まだ3、4歳の子どもを銃殺された母親が泣いているシーンを見て、私の心はとても痛みました。私は、無意味な戦争がなぜ今もなお起こってしまうのだろうと痛切に感じます。それは一体どれほど多くの人間の生命を奪ってきたことでしょうか。肌の色や言葉は違っても彼らは皆人間であり、痛みや苦しみも分かっているというのに。

長引く数々の戦争は、加害者が予測もしなかったような大変悲惨な悪影響を残してきました。それは今の世代から違う世代へと人間の心の中にざわざわするような痛みをまき散らしてきました。傷跡は癒えても、痛みは続きます。枯葉剤は、多くの不幸な人々の幼少期そして人生を奪ってきました。そしてさらにつらいのは母親たちであり父親たちです。私はそのような子どもたちよりも幸運です。私は戦争が世界からなくなってほしいといつも願っています。

政治的、経済的に強くしっかりした国家の建設を成し遂げるために、日々みんなが手を取り力を合わせていくことで、初めて人々が幸福で満ち足りた生活を送ることができるのです。私は日本の国民に大変感服しました。国を発展させ前進させるために手を取り力を合わせて戦争の被害を克服し

たからです。ベトナムと日本の協力関係が日増しに密接になりさらに拡大することを私は望んでいます。

手紙の最後にお父さま、お母さまがいつもお元気でたくさんの喜びに恵まれますようお願い申し上げます。娘はいつも一度でいいからお父さま、お母さまに会えることを夢見ています。私のことはいつも安心していてくださいね！ 私はいつもお父さま、お母さまのことを考えとても恋しく思っています。

(Le Thi Nhi)

* * *

温かく幸福な家庭

ヴォー・キム・クアン

私はカマウ (Ca Mau) 省ウーミン (U Minh) のカインラム (Khanh Lam) 高校 12 年生です。

最近お母さまはお元気ですか？ きっとお仕事がとてもお忙しいのでしょうね。今までずっと私をご援助くださいましたことをとても感謝しています。そのおかげで私の勉強は大変良くなりました。そしてまた、私の日々の生活で悩み事がなく心が穏やかになり、幸福で平穏な時間を過ごせるように、家族やあらゆる方々中でも特に里親さまが願ってくださいました。

今までずっと私はささやかな願いを持ち続けていたのですが、それはお母さまにお目にかかって一緒にご飯を食べられたらいいな、ということです。そうできたら、私はとても幸せです。なぜだかわかりませんが、私はその瞬間のことを考えると涙を禁じえません。私はお母さまのことをとても大好きで尊敬しているからだと思います。お母さまは私のために毎月お金を捻出 (ねんしゅつ) しなくてはならないので一生懸

命働いてくださいました。私は、今まで一度もお目にかかったことがなく隣に座って話したことも一度もなく、ただお手紙を通して気持ちを打ち明けてきたお母さまのことを、大変誇りに思っています。

私はこのことを考えるとき心に誓うことは、自分が一生懸命勉強して良い成績を取らなくてはならない、そのためどんなときでも自分が良い成績を取れるよう丁寧にノートを取り勉強し、勉強方法も研究します。学校では先生方の授業を集中して聞き、家に帰ってからはノートを取りだしよく分からなかった部分を見直したり次の日の予習をします。

私は経済的に困窮しあらゆるものが欠乏した家庭に生まれ育ちましたが、ほかのみんなより大変幸福で幸運です。なぜならばとても温かく幸福な家庭で生活しているからです。そして遠いところにお住まいの素晴らしい気高いお心のお母さまがいらっしゃいます。私は今まで一度も落胆したり絶望したことはありません。ですから今まで家族そして何よりもお母さまを裏切らないために一生懸命勉強してきました。私はお母さまに心を打ち明けることができることが何よりもうれしいです。

(Vo Kim Quan)

* * *

精神的なプレゼント

グエン・ティン・フォン

私は現在、ハノイ師範大学国語科 2 年の学生です。私はこの手紙をちょうど旧暦の (12 月) 28 日に書いています。あと残り 2 日で私たち民族全員が待ち望んでいる神聖な祭日であるテト (旧正月) がやってきます。

本当に、私の心の中には感謝と親愛の気

持ちがあり、里親さまとお呼びするのは遠くてよそよそしい感じがします。もしお許しいただけるなら里親さまのことをお父さまと呼ばせていただきたいと思います。

お父さまの恩義と温情のこもったご関心・ご援助・愛情を受け取らせていただいてこれで5年になります。本当に私は青葉奨学金を受け取らせていただいて光栄です。初めのころ私は、どうして遠い日本の国にいらっしゃる私とまったく面識のない方が、私のような恵まれない境遇の生徒に対して喜んで愛情を注ぎ援助をしてくださるのだろうか、と本当に不思議でした。しかし時間がたって、遠い日本の国にいらっしゃるお父さまの心からの庇護（ひご）とご関心の下で成長してきて、突如分かったのですが、私の疑問に対する答えは、私に対するお父さまの大変尊く素晴らしい愛情と包容力と慈愛の気持ち以外に説明のしようがない、ということです。

私たちの民族の神聖な新年を迎えるにあたり、私が唯一望んでいることは、自分の正直な気持ちを里親さまと分かち合うために、お父さまの本当に近くに駆け寄りたいということです。私にとってこの新年は今までより何倍も幸福であり、温かく、完璧だと感じています。春の気候や新年の雰囲気の良いかもしれません。

でも重要で、さらに感動したことは、日

本にいつも気にかけてくださり温かい気持ちを持っていてくださって、愛情と限りない共感の温かい光によって私の心を温めてくださるお父さまがいらっしゃる私と私が認識していることです。これは私一人の想いではなく、恵まれない境遇でありながら勉強したい、知識を吸収して社会のために貢献したい、と願う数多くの生徒たちがお父さまから恩義と温情の奨学金を受け取らせていただいて、やはり同じように感じていることを私は知っています。空間上は離れていても、お父さまの愛情はあらゆる境界を超えて、私の夢に翼を与えてくれ、私の心をさらに豊かにしてくださいました。それはまさに値段をつけられない精神的なプレゼントであり、私に人としての勉強をさせてくださり、人格の形成を学ばせてくださったことを本当に里親さまに感謝しています。

私はいつも自分の心にこう言い聞かせています。お父さまを裏切らないために、一生懸命勉強しなくてはいけない、能力を身につけ国のために仕事をしなくてはならない。そして、私は一度でいいから自分の国にお父さまをお迎えし、お父さまにお目にかかって一緒にお話したいと願っています。

(Nguyen Thanh Huong)

■電子メール送信の際のお願い

ベトナム子供基金では、会員の皆さまとの連絡などに電子メールを活用しておりますが、子供基金の電子メールには毎週、数百通の迷惑メールが送信されています。そのため、子供基金の活動とは関係ないと想定される内容の電子メールは、自動的に、子供基金のパソコンで受信しない仕組みを導入しております。会員の皆さまからの電子メールを確実に受け取るため、電子メールをお送りくださる場合は、タイトル (subject) に「ベトナム子供基金」と入力いただければ幸いです。ご協力をお願いいたします (事務局)。

- ・良い例＝ベトナム子供基金：問い合わせ
- ・悪い例＝よろしく申し上げます

■ベトナム里子面会旅行

清水 匡

ベトナム子供基金の紹介で、向学心のある子どもたちを支援する集いに加わり、子どもたちの成長に立ち会って行くことができました。本会との関わりを始めたときからベトナムには興味を持ってきましたが、今年（2007年）の3月末に36年間の勤めを退職したのを機会にようやくベトナム旅行を実施いたしました。

旅行の実施を決意してからも旅行会社のツアーのため宿泊するホテルが確定しない等、自分では計画を立てにくい状況でした。それでも10年来の交流のある子どもに会うことは退職後の夢でした。

今回は、東京の子供基金事務局とホーチミン（Ho Chi Minh）市の青葉奨学会に大変お世話になりました。ベトナムには興味を持ちながら地理は分からず、気軽に里子に面会を希望しましたが、地方の子どもとの面会は大変なことでした。結果的には青葉奨学会の尽力により希望通りに面会を実現できました。

旅行1日目の面会は、ホーチミン市内なので青葉奨学会にて面会の予定でしたが、飛行機が遅れてしまったのと、予想以上の道路の混雑でホテル到着が遅れてしまいましたので、途中でガイドさんに連絡してもらって面会の場所と時間を変更しました。

青葉奨学会での面会も考えましたが日本人が夜の町を散策するのは、危険に遭う可能性もあるとのことで宿泊しているホテルで面会しました。

約束の時間に、青葉奨学会の職員と通訳に連れられてホー（Ho）くんが来ました。中学生ですがすでに身長は私よりも大きくなっていて、現在の若者らしさが現れていました。彼は現在家庭の事情でお寺で生活



後列左から、清水洋子さん、ホーくん、1人おいて、ラップさん。前列右が清水匡さん

していますが、サッカーに興味を持って元気に毎日過ごしているようです。

屋上の喫茶フロアで話をしましたが、風が気持ちよく吹いている中での面会は、話の切れ間もなく時間が過ぎてゆきました。日本から同行の義姉母子も同席して楽しく面会をしました。心ばかりの土産を用意していきましたが、彼も私に土産を用意してくれていた心遣いに感動しました。

手紙の交換もなく初対面でしたが青葉の職員やドンズー日本語学校の卒業生の通訳のおかげで親しく話をすることができました。9時くらいに面会を終了しホテルにて別れました。

翌日は、10年間文通をしているウェン（Uyen）さんです。彼女とは小学生のときからのつながりがあるため、特に会いたい子でした。昨日も通訳してくれたラップ（Lap）さんが朝6時にホテルまで来てくれました。すぐに出発して彼女の在籍するカントー（Can Tho）大学を目指します。

朝早いためホーチミン市内の混雑はあまり気にならないうちに郊外に出られました。間もなく日本人が観光でメコン川クルーズを楽しむミトー（My Tho）に着きます。

この調子で行けるのなら予定よりも早く

にカントーに着けるのかと思っていたら、最後にメコン川のフェリーがあり、ここでの待ち時間が40～50分くらいかかってしまいました。メコン川を渡るとすぐに約束のカントー大学に着きました。

ラップさんが電話をしましたが、ウェンさんは校門で待っていてくれたので電話の前に妻はすぐに彼女を見つけました。当たり前のことですが、以前に写真で見えていた通りの娘でした。タクシーのドアを開けると彼女もすぐに私たちを見つけて走って来てくれました。

ウェンさんは、手紙の文章から感じる可愛らしさをそのまま現実を感じさせてくれました。時間があればカントーの市内を見学したかったのですが、限られた時間しか一緒にいられないので、メコン川の畔にあるホテルの屋上に落ち着きました。

ここはメコン川を見下ろす立地条件の良い場所にあるホテルです。周りを遮る建物は全くなく360度の風景を楽しめる場所でした。特にフェリーで渡ってきたメコン川は、日本では絶対に見られない景色です。

食事のときには、日本語を話せない彼女が通訳に教わりながら「オトウサンコレタベテクダサイ」と現地の野菜のためを取ってくれたりした心遣いに感動しながらの充実したひとときでした。

大学の卒業も近づいてきますが卒業後はお姉さんと同じに教師になることを希望しているようです。また卒業後は時間を見つけて日本語の勉強もしてみたいと言っていました。彼女と日本語での会話ができるようになれば、私にとってのベトナムがもっともっと身近な存在になるので、ぜひこの計画も実現してもらいたいものです。

ウェンさんにも日本からの土産物を用意していったのですが、彼女は私、妻、そして息子2人には手作りの土産まで用意してくれました。



清水夫妻とウェンさん

その後、彼女を大学まで送って今回の面会は終了しました。10年間の思いを込めた3時間を過ごして、今後も彼女の夢の実現にできるだけ協力することを思いながら帰路につきました。

帰りは、5時ごろになってしまってホーチミンの雑踏に遭遇してしまいました。空港からのときもすごかったのですが、それを上回るオートバイの雑踏です。オートバイの海をタクシーが泳いでいくような状況です。後部座席に座っていても周りが気になって緊張の連続でしたので、無事にホテルに到着したときは安堵いたしました。

最後に、今回の面会について、東京の事務局、そしてホーチミンの青葉奨学会の皆さまに大変お世話になりました。心より感謝するとともに今後の活動がより充実することをお祈りして報告いたします。ありがとうございました。

(しみず ただし)

*

■ベトナム子供基金との出会い

島田 直子

このたび、子供基金の里子からの手紙翻訳に携わることになりました島田と申します。私が子供基金と出会ったのは10年以上前のことです。海外長期滞在計画を練っていた私は、ベトナム行きを決定しました。そして、1995年の冬に語学雑誌でアジア文化会館のベトナム語講座を見つけ、週に1度仕事帰りにベトナム語の勉強を始めたことがきっかけです。

翌年、計画通りに单身ホーチミン(Ho Chi Minh)市を初めて訪れ、約5年間滞在しました。ベトナム語が聞き取れるようになったのは、2年もたってからです。

現地では青葉奨学会の活動に参加する機会もあり、貴重な経験ができました。

ベトナムでは、旧正月のテト前に新しい服を準備し新年を迎える習慣があります。そこで、青葉奨学会では、テト前に子どもたちに制服をプレゼントするという活動が毎年ありました。バイクに服の詰まった大袋を積んで炎天下を走り、複数の施設を訪れました。貧しい子どもが多くいましたが、その子どもたちを支えている方々や組織も多いことに感心しました。また、奨学会の活動に同行した20代のベトナム人が、子どもたちを前にこっけいなことをして笑わせたり、楽しく歌ったりする頼もしい姿にも感動しました。困っている人を助けることは当然であると多くの人と考え、行動している、その姿にベトナムの底力を感じました。

さて、5年間の滞在期間中、街はどんどん発展し、スーパーが増え、物が増え、皆の乗っているバイクは洗練されたものに変化しました。私もバイクに乗るようになってからは、万が一転んだときのためおよび

日焼け防止に、スカートではなくジーンズを、サンダルではなく靴を履くようになりました。派手なマスクや日焼防止長手袋も必須アイテムです。

バイクは便利で必要ではありますが、危険なものも事実です。バイクのミラーは、込み合った道路でほかのバイクのミラーとぶつかるので危ない、という意見を聞いたときには、驚いた反面感心しました。所変われば常識も変わります。車の台数増加に比例し、危険度が増します。運転中ヒヤッとしたことが何度もありましたが、無事帰国できました。しかし最近では信号機も増え、赤であれば皆停まり、運転マナーは改善されているようです。ただ今はもう、あの街中をバイクで走る勇氣はありません。

2001年に帰国してからもう6年以上が過ぎました。ベトナムのイメージも大きく変わり、旅行先としても定着しました。私がベトナム行きを決めたときには、地雷が危険ではないのか、と心配したり、カンボジアと混同している友達もいました。なぜベトナムへ行くのかと、驚く相手の様子に私が驚きました。両親は反対しないのかと何人にも聞かれたものです。しかし、おしゃれなベトナムが雑誌等によく特集されるようになってからは、行ってみたいとか、ベトナム料理はおいしい等の声を聞くようになりました。旅行の代金も安くなり、ビザ取得も不要です。本当に近い国になりました。

ベトナムは、経済発展著しい反面、まだ学校へ通えない子どもも多くいます。私も微力ながら、里親支援を続けていきたいと思っています。子供基金の学生たちが皆実力をつけ、良い仕事に就き、幸せな家庭を築くことを願っています。

(しまだ なおこ)

事務局便り

5月の総会を機に、長らく事務局長として切り盛りしてこられた飯田さんが任期を終え、事務局を退かれました。全面的に飯田さんに頼ってきた事務局は、現在その引継ぎにおおわらわです。

幸い、新事務局長には青葉奨学会のゲン・ドク・ホウエさんと留学時代から親しく、当初から子供基金の里親会員として参加して下さっている植田泰史さんに引き受けて戴くことになりました。しかし、植田さんは茨城県に住んでいらっしゃるの、そう度々上京をお願いするわけにもいきません。従って、植田さんのもとで動ける人々が、それぞれ時間を提供して協力体制を作りたいと思っています。

茨城県からはもう一人、植田さんの友人でやはり発足時からの里親会員である、コンピュータに詳しい黒羽宏さんが必要に応じて出て来てくださっています。古く

なった事務局のパソコンは在沖縄の中原和夫さんが新品を寄贈してくださいました。また、事務局には、新しいボランティアが参加してくれることになりました。大学院生勢村かおりさんはベトナムの貧しい家庭の教育問題をテーマに研究しておられます。新運営委員には、かつてアジア文化会館で留学生と共同生活をされていた樋川好美さん、同じくアジア文化会館で、留学生のために日本語ボランティアをされている奥山義夫さんが参加してくださいました。

皆で力を合わせてこの山を乗り越えたいと思いますが、当分の間、処理方法がわからないとか、共同作業の引継ぎがうまくいかないとか、私のようにパソコンの使い方がよくわからなかったりなどで、会員の皆さまにご迷惑をおかけすることがあるかもしれません。

ご寛恕(かんじょ)を請う次第です。

(近藤昇)

■ご入金報告

ご支援ありがとうございます(敬称略)。

2007年3月

2007年4月

2007年5月

2007年6月

■最終入金日のお知らせ：里親基金と一般基金の最終入金日を封筒の宛名ラベルに表示しました。表示は「会員番号(KD-×××)年/月/日」となっています。次回ご入金の参考にしてください。

■2007年5月29日現在の会員と奨学生（里子）：

里親基金：209人（296口）、一般基金：37人（39口）＝青葉奨学生413人

ベトナム子供基金10周年記念事業

ベトナム黄梅基金 1口1万円	ベトナム子供基金の会員で基金を設立します。	お申し込みは次の専用口座にお願いいたします。 口座名義「ベトナム子供基金」 郵便振替 00190-6-666994 銀行振込 みずほ銀行駒込支店 支店番号 559 普通預金 8071959
個別黄梅基金 1口30万円以上	個人またはグループで黄梅基金を設立します。基金の名前、支援地域・学校等は、ご相談の上、決定します。	
学校建設黄梅基金	青葉奨学会と相談の上、個人またはグループで学校建設と黄梅基金を併設した基金を設立します。	

ベトナム子供基金会員募集

里親基金 年額1口 2万円	特定の「里子」に奨学金を支給する里親になっていただきます。ベトナム青葉奨学金から子どもの履歴票が届き、子どもとの手紙のやりとりができます。（学生会員は年額1口1万円）	会費納入は次の口座にお願いいたします。 口座名義「ベトナム子供基金」 郵便振替 00140-1-70399 銀行振込 みずほ銀行駒込支店 支店番号 559 普通預金 1495745
一般基金 年額1口 1万2000円	子どもたち全体の「里親」という関係を想定しています。子供基金通信によって、会の運営、子どもたちの様子をお伝えします。	
賛助基金	一般基金に準じます。金額、回数等、いっさい自由です。	

ベトナム子供基金

東京都文京区本駒込 2-12-13
アジア文化会館内 〒113-8642

電話（代表）：03-3946-4121

ファクス：03-3946-7599

電子メール：kodomo.kikin@nifty.com

ホームページ：http://homepage3.nifty.com/vcf/

ベトナム青葉奨学会

QUY HOC BONG LA XANH
c/o TRUONG NHAT NGU DONG DU

43D/46 Ho Van Hue, Q. Phu Nhuan

Ho Chi Minh, Viet Nam

電話：84-8-8477359

ファクス：84-8-8477527

ベトナム子供基金通信 第40号 2007年7月21日発行 発行所：ベトナム子供基金

発行人・編集人：近藤昇 印刷所：株式会社プリントン © Vietnam Kodomo Kikin 2007